

研究テーマ

物語全体を対象として読むことのできる児童を育てる指導の工夫

提案者 松下洋介

I 研究テーマについて

1 テーマ設定の理由

本研究で目指す、物語全体を対象として読むことのできる児童とは、中学年では、学習課題を解決するために、複数の場面の叙述を基に、登場人物の人物像や心情をとらえ、自分の考えをまとめることのできる児童のことである。高学年ではさらに、作者の生き方や考え方、シリーズ作品の解釈も基にすることのできる児童である。

このような児童像を目指すことになったのは、これまでの実践が基になっている。これまでは、場面ごとに読むのではなく、物語全体を対象として読まなければ解決できないような課題を設定し、指導してきた。成果として、複数の場面から登場人物の人物像や心情を読み取ろうとする姿が見られるようになった。ただし、上記の実践には課題も残った。それは、①読まなくてはならない範囲が広がったために、着目すべき叙述を見付けられない児童がいたこと、②登場人物の人物像や心情を十分には読み取ることができなかつたことである。原因として、登場人物の相互関係や、行動と心情の因果関係をとらえて読めていなかつたことが挙げられる。

そこで、昨年度末より、関連付けて読むことができるように指導している。「関連付けて読む」とは、複数の場面の叙述や、作者の生き方や考え方、シリーズ作品の解釈を基に、登場人物の相互関係や、行動と心情の因果関係をとらえて読むことである。昨年度は、以下の点が課題として残った。①複数の場面の叙述を自分の考えの根拠とすることができなかつたこと②登場人物の行動と心情の因果関係を十分にはとらえられなかつたことである。

そこで、本年度は、手立てのさらなる精選を行い、指導していく。具体的には、①摘読（文や文章全体を概観しながら拾い読みをすること）の仕方②人物関係図の書き方と、それを使った課題解決の仕方③リーディングマップ（イメージマップ形式のワークシート）を使った話合いの深め方を指導していく。これらの手立てにより、児童が根拠となる複数の場面の叙述を見付けやすくなり、登場人物の相互関係や、行動と心情の因果関係をとらえやすくなるものと考えたからである。

また、「平成25年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告」（国立教育政策研究所）では「複数の内容を含む文や文章を分析的に捉えたり関連付けたりしながら、自分の考えを書くことについて、依然として課題がある」と明記されている。また、「読むこと」の指導改善のポイントとして、「登場人物や作品の構造、表現・叙述、視点などの観点に基づき、それらに関係付けて読むとともに、自他の読み方の工夫などについて交流することが大切である。」と明記されている。本研究が、これらの課題を改善する一つの方法になるのではないかと考えている。

以上のような考えから、本研究主題を設定し、実践に臨むこととした。



2 テーマにせまるための方策

研究主題にせまるため、次のような研究の視点と手立てを考え、実践を行い、検証を試みる。

視点

関連付けて読むことができるように指導することで、物語全体を対象として読むことができるようにする。

〈手立て〉

- (1) 関連付けて読むことができるように、摘読の仕方を指導する。具体的には、4年生では、主な登場人物の行動や心情に、6年生では、さらに、作者の伝えたいこと（作者の教え）が書かれた叙述にサイドラインを引き、そこに着目して読むようにする。摘読したことは、人物関係図やリーディングマップに記入するよう指導する。【4年…2～5時・本時 6年…3～5時・本時】
- (2) 関連付けて読むことができるように、人物関係図の書き方と活用の仕方を指導して、登場人物の相互関係をつかめるようにする。具体的には、①登場人物を挙げる②摘読して読み取った登場人物に関する叙述を記入する③登場人物同士を線で結び、お互いに対する見方について、読み取ったことを書く、の順で書くように指導する。また、6年生では、課題解決の際に人物関係図の記述を使って考えをまとめるように指導する。【4年…3～5時・本時 6年…3～5時・本時】
- (3) 関連付けて読むことができるように、リーディングマップを使った話合いの仕方を指導し、行動と心情の因果関係をつかめるようにする。具体的には、学習課題となる登場人物の行動と、そこで考えられる心情をマップ上に書く。さらに、摘読して読み取った叙述や、人物関係図に記入したことを付箋に書いて、リーディングマップ上に貼っていくようにする。また、4年生では、考えられる心情を教師が示し、スムーズに話し合えるようにする。

【4年…3～5時・本時 6年…3～5時・本時】